

推進技術の海外進出に向けて ～推進関連企業編～



ベトナム・ホーチミンの道路交通状況

民主党政権が3年目を迎え、政権交代当初より進める新成長戦略としての建設事業海外進出のうち、水インフラ事業については、ベトナムやインドネシア、インドなどを対象国として、政府高官レベルでの基本協議が着実に進められ、その成果も見えつつあります。

水インフラ事業には、上水道とともに下水道整備が含まれます。下水道整

備には、終末処理場の建設が目を引くものの、その事業の大部分は管路敷設事業となります。そこには、我国が築き上げた世界に冠たる高水準の推進技術が大いに活躍できる舞台が整いつつあります。

現在、当協会員の数社が台湾において様々な推進工事を施工中です。また、これまでもシンガポールやベトナム、

マレーシア、韓国さらには中近東諸国にまで、推進工事の施工受注あるいは推進用掘進機の輸出版売の実績があります。しかし、これらはどちらかと言えば、ある一推進施工業者、また推進機械メーカーでの単独受注でしかありません。今後、日本として水インフラビジネスの海外展開を大々的に考えるとすれば、優れた我国の推進技術を高い評価と収益で海外に売り込むには、「推進技術・チーム日本」のあり方を考えるべきかもしれません。

本日は、すでに海外業務の実績がある推進施工企業から2名、推進用掘進機メーカーから2名、さらに今後、海外進出を視野に入れている管材メーカーから2名の方々にお集まりいただき、今後の展望と見えてくる課題、そしてそれへの対応方針など、新春にふさわしく明るく、力強く語っていただきました。

出席者（敬称略）

推進施工企業	なかの 中野 正明：機動建設工業(株)取締役常務執行役員土木本部長
〃	やすだ 安田 一成：ヤスダエンジニアリング(株)常務取締役
掘進機メーカー	おの 小野 潤治：奥村機械製作(株)取締役技術部長
〃	まつざき 松崎 彰義：(株)イセキ開発工機代表取締役社長
管材メーカー	みやの 宮野川 繁男：日本ヒューム(株)専務取締役
〃	しおみ 塩見 昌紀：日本ゼニスパイプ(株)代表取締役社長
[進行役]	いしかわ 石川 和秀：(公社)日本推進技術協会専務理事

海外進出に描く 理想のビジネスモデルは？

いしかわ かずひで
石川 和秀
(公社)日本推進技術協会
専務理事



海外進出に描く 理想のビジネスモデルは？

石川：民主党政権が進める水インフラビジネスの海外進出も、早3年目を迎え、ベトナムやインドネシアなどを対象国として、政府間レベルでは確かな動きも見え始めました。水ビジネスには下水道にしても上水道にしても、幹線管路整備は欠かせないものになります。そこに、我国の世界に誇る高水準の推進技術にとって、大きな活躍の舞台も見えてきます。しかし、我々は、それをただ無意識に眺め、その機会到来をただ安穩と待っているだけでは、活路は絶対に開かれません。であれば、この段階で、我々推進関連企業として、何を意思表示し、どう行動するか、そのターニングポイントが迫っているように感じます。

本日は、これまでに海外実績を積んでこられた推進施工企業、掘進機メーカーからそれぞれ2名、それに今後の進出を視野に入れている管材メーカーから2名の方々にお集まりいただき、その展望と抱負をお聞きしたいと思います。

まず、管材メーカーの方から、差し支えない程度に、貴社と関連業界の現況と国内展望、海外進出に描く理想のビジネスモデルがありましたら、自己紹介も含めお願いします。

すでに香港、タイ、インドネシアで 製造 他にも・・・

宮野川：私ども日本ヒュームは、既に海外事業を手掛けております。取扱製品はヒューム管ばかりでなく、パイルは香港、タイ、インドネシア等で製造を行っていますし、またバクダッドではパイププラント、上海ではパイルプラント等も手掛けてきました。推進管に付きましては、1975年に台湾のコンクリートパイプを扱っている最大手の台湾永明水泥有限公司と製造の技術提携を結びまして、その後、香港最大手の香港ドーランとも技術提携を行っております。自社工場も海外に持たせておまして、タイにはニッポンヒュームコンクリートタイランド、インドネシアにはピーティーヒュームコンクリートインドネシアがあります。そちらの工場では、高圧電力ケーブル用パイプや内面スティールシリンダーの上水用パイプ等の実績があります。また、だいぶ以前の話ですが、ここにいらっしゃるイセキ開発工機さんの施工でフィリピンマニラ空港の雨水排水管を納めさせていただいております。今現在は、香港で洪水対策用セグメントを納めさせているところです。

「とにかくベトナムを見に来なさい」 の言葉に動かされ

塩見：日本ゼニスパイプの塩見でございます。一応、ヒューム管も作っておりますコンクリート製品メーカーです。国内での我々の業界は需要が激減しており、当社も脱コンクリートを図り事業の多角化へ取り組んでいるところです。本日は、これから大量の需要が期待できる海外への進出に関する座談会ということですが、当社以外のメンバーは、すでに海外での事業展開を経験し、成功されている会社ばかりですので、正直、私は場違いではないかと心配しています。笑止千万なことを申し上げるかもしれませんが御容赦ください。

当社の資料を見ますと、昭和10年代には台湾や満州、韓国にも工場があったようですが、これらの工場を撤収してからは、海外とはずっと無縁でした。たまたま三年ほど前に、当社のヒューム管以外の技術ですが、韓国のメーカーから技術提携の依頼があり、何度か韓国へ行ったり日本に来てもらったりするうちに海外での事業ということに眼が向くようになりました。特に韓国のコンクリート製品メーカーがアルジェリアや中国などに国の後押しを受けながら進出している姿を見るにつけ、島国日本にないパワフルなものを感じました。彼らから「グアムへの米